

2022年3月

比較

IFRS S2号「気候関連開示」[案] とTCFD提言

この文書は、IFRS財団のスタッフが利害関係者の便宜のために作成したものである。この文書で示している見解は、これを作成したスタッフの見解であり、必ずしも国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の見解又は意見ではない。この文書の内容は、助言となるものではなく、ISSBが公表した権威ある文書と考えるべきではない。

国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が公開草案「気候関連開示」（「本公開草案」）において提案している要求事項は、気候関連財務開示に関するタスクフォース（TCFD）が公表した4つの提言及び11の推奨される開示と整合している¹。本公開草案がTCFD提言と異なっている領域は、本公開草案とTCFDのガイダンス（TCFDの核（core）となる提言又は推奨される開示ではなく）との間の相違を反映している。

以下の表は、本公開草案で提案している要求事項とTCFDの提言、推奨される開示及びガイダンスとの間の主要な相違点を要約している。

これらの相違点は3つの形態を取っている。具体的には、本公開草案は、

- TCFD提言と同じ情報を捕捉するのに異なる文言を使用している（いくつかの事例）。
- TCFD提言に沿った追加のより粒度の細かい情報を要求している（少数の事例）。
- TCFDガイダンスとは実質的に異なっているが、TCFDの全体的な提言とは異なっていない。主としていくつかの追加の具体的な開示を提案していることによるものである（非常に少数の事例）。

¹ TCFDフレームワークは、4つの主要な提言（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標／目標）、11の補強的な推奨される開示並びに全セクター向けのガイダンス及びセクター固有のガイダンスで構成されている。ガイダンスは提言の適用についての情報をもたらすが、正式な提言の一部ではない。

TCFDの提言、推奨される開示及びガイダンス	気候関連開示の公開草案
<p>ガバナンス</p> <p>気候関連のリスク及び機会に関する組織のガバナンスを開示する。</p>	<p>ガバナンス</p> <p>気候関連のリスク及び機会をモニタリングし管理するために用いるガバナンスのプロセス、統制及び手続を理解する。</p>
<p>推奨される開示 a)</p> <p>ボードによる気候関連のリスク及び機会の監督を記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本公開草案は、TCFDガバナンス提言と整合的である。 • しかし、本公開草案は、ガバナンスに関する追加的な情報の開示を要求しており、これには以下が含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> • 気候関連のリスク及び機会の監督について責任を負う機関又は機関中の個人の特定 • 気候関連のリスク及び機会に関する当該機関の責任が、企業の付託事項、ボードの義務及び他の関連する方針にどのように反映されているか • 気候関連のリスク及び機会に対応するために設計された戦略を監督するための適切なスキル及びコンピテンシーを利用可能とすることを、当該機関がどのようにして確実にしているか • 気候関連のリスク及び機会の管理に対して専用の統制及び手続が適用されているかどうか、及び、適用されている場合は、それらが他の内部機能とどのように統合されているかに関する情報
<p>推奨される開示 b)</p> <p>気候関連のリスク及び機会を評価し管理する上での経営者の役割を記述する。</p>	

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの

TCFDの提言、推奨される開示及びガイダンス	気候関連開示の公開草案
<p>戦略</p> <p>気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に与える実際の及び潜在的な影響を開示する（そのような情報に重要性がある場合）。</p>	<p>戦略</p> <p>重大な気候関連のリスク及び機会に対処する企業の戦略を理解する</p>
<p>推奨される開示 a)</p> <p>組織が短期、中期及び長期にわたり識別した気候関連のリスク及び機会を記述する。</p>	<p>本公開草案は、TCFDの推奨される開示のa)及びb)と整合的であるが、リスク及び機会の影響を記述するにあたり、本公開草案は、以下に関する追加的でより粒度の高い情報を要求している。</p>
<p>推奨される開示 b)</p> <p>気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に与える影響を記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 企業がどのようにリスク及び機会に直接的に対応しているのか（ビジネスモデル、戦略、資源配分、生産工程、製品、労働力の変更を含む） • 企業がどのようにリスク及び機会に間接的に対応しているのか（顧客及びサプライヤーとの協働を含む） • 企業の戦略及び計画は、どのように資源が調達されるのか • 時間の経過とともに財政状態に予想される変化（投資計画及び資金源を含む） • 時間の経過とともに財務業績に予想される変化（売上及びコスト） <p>本公開草案（第13項(b)）は、移行計画に対するアプローチがやや異なっている。</p> <p>移行計画は、企業の戦略の一部として参照され、したがって戦略の開示要求の対象となり、排出削減目標及びカーボン・オフセットの使用についての開示に関する明示的な要求事項が設けられている。</p>

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの

推奨される開示 c)

さまざまな気候関連のシナリオ（摂氏2度以下のシナリオを含む）を考慮に入れて、組織の戦略のレジリエンスを記述する。

本公開草案は、以下に対するレジリエンスに関する追加的な情報を要求している。

- 戦略のレジリエンスについての重大な不確実性の領域
- 企業が時間の経過とともに戦略を修正し適応させる能力
- レジリエンスの分析又は評価がどのように実施されたのかに関する詳細

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの

TCFDの提言、推奨される開示及びガイダンス	気候関連開示の公開草案
<p>リスク管理</p> <p>組織が気候関連のリスクをどのように識別、評価及び管理しているのかを開示する。</p>	<p>リスク管理</p> <p>気候関連のリスク及び機会を識別、評価及び管理するプロセスを理解する。</p>
<p>推奨される開示 a)</p> <p>気候関連のリスクの識別及び評価のための組織のプロセスを記述する。</p>	<p>本公開草案（本公開草案の第17項(a)から(c)）は、TCFDの推奨される開示a)と整合的で、以下の追加をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 機会を識別し優先順位を付けるために用いたプロセスを含めている • リスクを識別するために用いるインプット・パラメータ（例えば、データソース、対象となるオペレーションの範囲及び仮定において用いられる詳細） • 過去の報告期間と比較して、用いたプロセスを変更したかどうか
<p>推奨される開示 b)</p> <p>気候関連のリスクを管理するための組織のプロセスを記述する。</p>	<p>本公開草案（第17項(d)）は、TCFDの推奨される開示b)と整合的である。</p>
<p>推奨される開示 c)</p> <p>気候関連のリスクの識別、評価及び管理のためのプロセスを組織の全体的なリスク管理にどのように統合しているのかを記述する。</p>	<p>本公開草案（第17項(e)）は、TCFDの推奨される開示c)と整合的である。</p>

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの

TCFDの提言、推奨される開示及びガイダンス	気候関連開示の公開草案
<p>指標及び目標</p> <p>関連する気候関連のリスク及び機会を評価し管理するために使用している指標及び目標を開示する（そうした情報に重要性がある場合）。</p>	<p>指標及び目標</p> <p>企業が重大な気候関連のリスク及び機会を企業がどのように測定し、モニタリング及び管理しているのかを理解する。これらの開示は、企業が設定した目標に向けた進捗を含め、企業がどのように企業のパフォーマンスを評価するのかについて利用者が理解できるようにしなければならない。</p>
<p>推奨される開示 a)</p> <p>組織が気候関連のリスク及び機会を自らの戦略及びリスク管理プロセスに沿って評価するために使用している指標を開示する。</p>	<p>本公開草案は、TCFDガイダンスと同じ産業横断的指標カテゴリーを要求している。</p> <p>しかし、本公開草案は、企業の産業及び活動に関連する産業別指標の開示を要求する点で異なっている。</p>
<p>推奨される開示 b)</p> <p>スコープ1、スコープ2及び適切な場合にはスコープ3の温室効果ガス（GHG）排出、並びに関連するリスクを開示する。</p>	<p>TCFDガイダンスと整合的に、本公開草案はGHG プロトコルの使用並びに絶対総量及び原単位での排出量指標の開示を要求している。</p> <p>本公開草案は、以下のように、温室効果ガスについての異なる開示上の取扱いを要求している。</p> <ul style="list-style-type: none"> スコープ1及びスコープ2については、（1）連結会計グループと（2）関連会社（associates）、共同支配企業、非連結子会社又は連結会計グループに含まれていない関係会社（affiliates）について別個の開示を行う。 スコープ3排出の開示が要求されている。

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの

	<p>TCFDガイダンスは、データ及び方法論によって可能である場合、アセット・マネージャーが所有している資産についてのGHG排出及び各ファンド又は投資戦略についての加重平均炭素原単位（WACI）を開示することを提案している。これらの排出量は、金融向け炭素会計パートナーシップが開発した金融業界のための「グローバルGHG計量報告基準」（PCAF基準）又は比較可能な方法論に沿って計算すべきである。</p> <p>本公開草案は、銀行及びアセット・マネージャーのファイナンスに係る排出の計算について、WACI 又はPCAFの方法論の使用を明示的に述べていない。しかし、ファイナンスに係る排出及びファシリテーションに係る排出について提案している産業別開示要求は、PCAFの方法論を基礎としている。</p>
<p>推奨される開示 c)</p> <p>組織が気候関連のリスク及び機会を管理するために使用している目標並びに目標に対するパフォーマンスを記述する。</p>	<p>本公開草案は、以下の開示要求についてTCFDガイダンスと異なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 目標は、気候変動に関する最新の国際的協定において作られたものどのように比較するのか、及びそれは第三者により検証されているのか • 目標は、セクター別脱炭素化アプローチを使用して導き出されたのかどうか

本公開草案とTCFD提言との間の差異を識別するため、書式設定されたテキストを表の右側の欄で使用している。

黒の太字：本公開草案における追加の具体化でTCFD提言に沿ったもの

赤の太字：本公開草案における提案のうちTCFD提言にないもの

青の太字：TCFD提言におけるポイントのうち本公開草案にないもの